福田寺だより

発行
神奈川県小田原市飯田岡二五七
飯田山　福田寺
住職　橋本尚信

欲は捨ててはいけない？

―真言密教の奥義―

一般仏教では「欲は捨てなさい」という。なぜかというと、欲を持つとそれを満足出来なかった時に悩み苦しむからです。欲を持たなければもとになるものが無いのですから、悩み苦しみの無い世界が味わえるというのです。しかし人間にとって欲を持たないということが出来るだろうか？。欲というとマイナスイメージが強いので、例えば「望み」と言い換えても良いかと思います。「欲」「望み」「こうありたい」という現実世界に対する積極性を否定した時、人は生きている証を失ってしまうのではないか。生きている証を失ってまで、悩み・苦しみから解放されることを願う人がいるだろうか？　例えば「食欲」を考えた時、食欲があるから人は生きているのです。生きているだけで、すでに「食欲」という欲がついてまわるのです。欲は捨てられないのです。欲を持ちながら、悩み・苦しみから解放されることができるのだろうか？。これを解決したのが、弘法大師（空海）様が説かれた密教の教えです。もともと仏教は、お釈迦様以来「人は如何にして生きるべきか」ということを求めてきた教えです。仏教が死後の世界と深い係わりを持つようになったのは、人間にとって最大の苦しみは「死」であり、その苦しみから解放されるために、死後の世界に浄土を思い描いた結果だと思います。話を元に戻しますが、「人は如何に生きるべきか」ということを求め、体現されたのが、弘法大師様だと思います。　真言密教の考え方、修行の原点は全て、ここから始まっているのです。「欲」を捨て、生きている証を失っては、「如何に生きるべきか」は解決されないのです。

では、お大師様はどのようにして欲を捨てないで、悩み苦しみから解放された（これを一般に「悟り」という）のでしょうか？

お大師様の思想は『即身成仏』を主とします。つまり、この身このままで仏となるということです。自分が仏であると自覚することだというのです。と同時に相手も仏であると覚るのです。「欲」を捨てないで悟りを得るということは、この相手も周りも全てが仏であると自覚した時に理解できるような気がします。言い換えれば「自分自身を知る」ということだと思います。その為に何をしたら良いのか。修行もそのひとつです。真言密教の修行は「即身成仏」つまり自分自身が仏であると自覚するための方法を修してゆくものです。しかし私たちは誰もが修行に専心出来る訳ではありません。市井にあって修行をしてゆくことは、とても難しいことですが、何とか方法を見つけて「自分自身が仏である」と自覚したいものです。話が欲からかけ離れてしまったように思えますが決してそうではありません。

自分自身が仏であることを悟ると欲も仏の欲になる訳です。我欲が仏の欲になる訳です。仏の欲とは何かというと、自分だけの欲ではなく、全て自分に関わる者にとっても欲である訳です。自分だけの欲を満足させる「小欲」から自分に関わる全ての人の欲を満足させる「大欲」へと昇華したものであれば、決して捨てる必要はないのです。

どうでしょうか。欲もまんざら捨てたものでないことが、ご理解いただけたでしょうか。日々の生活の中で、「欲」をよくよく見つめなおして、現実生活を積極的に生きてゆきたいものです。

再びIT社会にもの申す

平成十七年が終わろうとしています。今年もさまざまな出来事がありました。特に小さな子が犠牲になる凶悪な事件がたて続けに起きました。どうも、私たちの精神が病んできているように思えます。その原因はいろいろあると思いますが、その一つに、ファミコン，インターネット，携帯電話等による、対面社会と逆方向の様々な世の中の情報手段があげられると思います。人間社会は人と人との対面（間）があって、はじめて人間（にんげん）なのです。「目は口ほどにものをいう」とは、対面

してこそ、本当の会話が出来る」ということだと思います。メールでは人間の会話は出来ないのです。しかし、メール時代の若者たちは、それが本当の会話だと信じていることでしょう。大げさに言えば、現実、一日否一週間、全く人と会わなくても普通の生活が出来てしまいます。人との係わりの稀薄社会が、どんどんと押し寄せています。古来「人は一人では生きられない」と言われてきました。このことは何を意味しているのでしょうか。今、私たちは「人は一人でも生きられる」という時代を受け入れようとしているのではないか。人は一人で生きてはいけないのです。一人で生きていると思っている人に他人を思いやる心は育ちません。いろいろな事件が起きて、地域社会やネットワークの重要性を見直そうとしていますが、後手後手の対策にすぎません。カギッ子という言葉が流行ったのはいつ頃だったか、ずいぶんと経ったように思いますがあの頃から、家庭、地域、社会の構造が、ガラッと変化したように思います。今、昭和のよき時代を懐かしむ風潮がありますが、自分たちが勝手に変えてきた時代を元に戻そうと思っても、それは無理というものです。次世代の人たちは、確実に今という時代を足早に生きているのですから。

根本的に、真剣に私たちの生活の一つ一つを、時代に流されずに生きてゆく必要があるように思います。買い物にしても、コンビニ、ネット、カタログ。支払いもカード、振り込み、携帯。そうしないと時代に遅れてしまうような・・・・。果たしてそうすることで、すごく便利になったでしょうか。むしろ弊害の方が多いのではないでしょうか。顔が見えない、声が聞こえない、人間がいない不気味な社会が、ひたひたと襲い来たっています。

寺族報告

七月のお施餓鬼の時に、報告しましたように、娘・真央が、四月から一年間、本山「東寺」で尼僧としての修行生活をしています。九月から十二月までの一〇五日間は、加行（けぎょう）といって、集中的に行を行う期間であります。二時半には起床して、三時半には、行が始まります。（早い時は十二時半に行が始まる）一日三座（三回）の行が毎日くり返されます。この行も十二月二十一日に、結願（終了）致します。この便りが着く頃は無事に終わっていることだと思います。その後一月半ばに潅汀という儀式を受けて（二日間は不眠）正式な尼僧の誕生となります。また、三月までの三学期は、緒伝授が行われ僧侶としての実践を学んできます。卒業を楽しみにしたいと思います。

新年厄除け薬師護摩供養
申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

恒例の新年厄除け護摩を一月八日午後一時より修行致します。護摩を焚く修行は、近年いろいろな所でされていますが、正統に受け継がれているのは密教寺院であります。福田寺は、京都・東寺を本山とする真言密教の寺で、創建以来八百六十九年、密教寺院としての歴史を刻んで参りました。

檀家以外の方でも勿論結構ですので、皆様お揃いで新年の護摩供養にお参り下さい。

記

期日・・・一月八日，午後一時より
祈祷料・・三千円
祈祷内容・・厄難消除（厄よけ）
身体健全，病魔退散，家内安全，
交通安全，商売繁盛，業運繁栄，
学業成就，合格祈願，安産祈願，
子授け祈願，その他
申し込み・・一月七日まで，電話可
電話　0465（36）2755
FAX0465（37）6688

平成十八年厄年

男性
前厄　昭和四十一年生まれ
本厄　昭和四十年生まれ
後厄　昭和三十九年生まれ

女性
前厄　昭和五十年生まれ
本厄　昭和四十九年生まれ
後厄　昭和四十八年生まれ

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。午前0時より一時まで、住職により新年の御祈祷が修法されます。ご自由に参拝ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは、寺の者に連絡してください。

年回のお知らせ

来年度の年忌（年回）法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。年忌に相当している場合、法事の日取りを早めに連絡して下さい。